

## 学術情報へのアクセス向上を目指して—機関リポジトリのいま

### オープンアクセスジャーナル

高木敏朗

オープンアクセスジャーナル(OA誌)は機関リポジトリと同じようにオープンアクセス(無料利用)を実現している学術情報流通の手段である。今まで、学術電子ジャーナルの刊行は有力出版社によって行われてきた。しかし、ここ数年で状況は大きく変わりつつある。電子ジャーナルを刊行できる無料ソフトウェアが提供され、システム構築費用の障害が取り除かれた結果、容易に電子ジャーナルを発行できるようになり、多数のOA誌が生まれている。その勢いは二〇〇八年では毎日二タイトル強が新しく発刊されている程である。そのOA誌の動向を概観する。

オープンアクセスを推進し、賛同者の署名を求める運動BOAIのOA誌に対する見解を要約すると、①研究者は、OA誌を創刊し、既存の学術誌をオープンアクセスに移行するのを助ける手段を必要とする。②論文を広範に流通させるため、アクセスや利用を制限するような著作権行使しない。また、OA誌の流通と視認性を追求して、OA誌のリストを作成しているDOAJ

J(参考文献③)は、そのリストに登録されるためには、無料で全文を利用できるとを条件にしている。さらに、①査読等で品質管理がされていること、②掲載論文は全文であり学術研究の成果であること、③定期的に刊行されていること、④発行後、直ちにオープンアクセスであること、を求めている。

しかしながらOA誌の発行においても編集や査読、システム維持の費用がかかるのは当然であり、利用者に料金を課さないとする、ビジネスモデルはどのようなになっているのであろうか。モデルには、①著者払い、②印刷体や広告からの収入、③公的機関や助成団体からの支援、④これらの混合、がある。この中で注目されるのが著者払いのモデルで、例えば、大手出版社であるワイリー・ブラックウェル社のオンラインオープンでは三〇〇〇ドル+カラー料金である。OA誌に投稿する著者への効用として、ハーナッドとプロデイが行った分析は、同一ジャーナルでは非オープンアクセス論文よりオープンアクセス論文の引用が

多いことを示している。しかし、著者払いでは著者の負担が大きいため、多くの財団などが支払いに対して支援を行っている。発展途上国の研究者にとって、OA誌を無料で利用できるのは利点であるが、特に、著者払いでは負担が重いので、医学誌の出版社であるバイオメドセントラル(BMC)は、中国、インドなどのGDPの大きな国を除き、発展途上国からの支払いを免除している。

DOAJの地域別、年別のタイトル数を図示した(図1、2)。二〇〇二年にわずかに二六タイトルでスタートしたが、二〇〇八年二月は三七六八タイトルに増大している。日本は九七タイトルが登録されているが、二〇〇六年以降の増加は六タイトルに留まる。登録の多くはJ-STAGE登録誌である。J-STAGEは、日本科学技術振興機構が運営する学術誌のポータルサイトで、学協会誌を中心として、七六二誌を網羅している。北米、西欧について中米が多いのは、公的資金によるScielO(参考文献⑤)の活動による大き



## 学術情報へのアクセス向上を目指して—機関リポジトリのいま

い。その原点となるプロジェクトは一九九七年にブラジルで始まり、現在では八カ国が参加し、五カ国が準備中である。そこには六〇二誌が登録されている。国別でもブラジルの二八八誌という数は、アメリカに次いで二位である。AJOL(参考文献②)はアフリカで発行されるOA誌のリストで、二五カ国から三三三誌が掲載されているが、停刊しているものも多い。ニューヨークとカイロに本拠を置くHindawi社は、

図1 地域別タイトル数

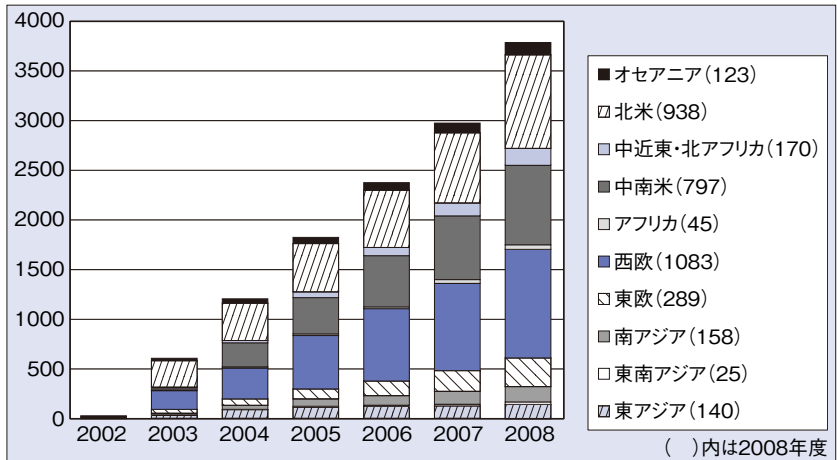
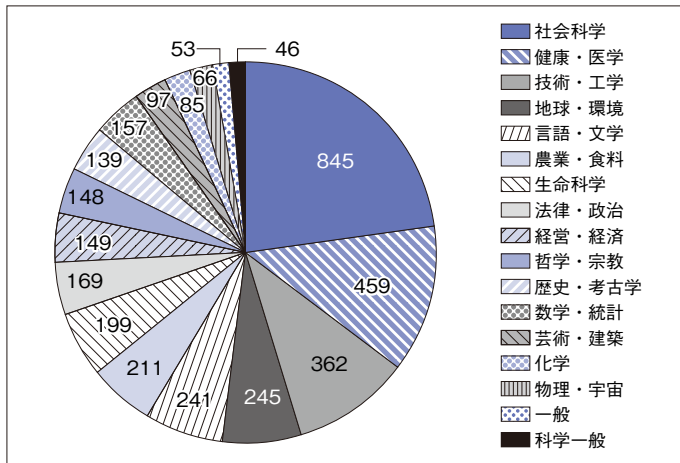


図2 主題別タイトル数 (2008年)



一〇〇誌以上の学術誌を出版する商業出版社であるが、二〇〇七年二月に全誌をOA誌としても刊行することを宣言している。主題別では、電子ジャーナルは科学、工学、医学が多いと思われるが、DOAJでは社会科学が最も多い。無料の電子ジャーナル用ソフトウェアのひとつであるOJS(参考文献④)は、国立情報学研究所の次世代学術コンテンツ基

盤共同構築事業の委託事業として早稲田大学(主担当大学)によって、メッセージなどの画面表示が日本語化された。OJSは全世界で約一四〇〇誌に使われている。アジア経済研究所図書館でもOJSに日本語検索機能などを追加し、研究所のサイトで公開されている雑誌に実験的(参考文献①)に利用してみた。

OA誌は、発行されているタイトルの増加や、それを支援する環境が整いつつあることから、科学論文のオープンアクセスを支える学術情報流通の手段として進展しているといえよう。地域別と主題別タイトルの数値、URLへのアクセスは、二〇〇八年二月七〜一〇日現在である。

(たかぎ としろう/アジア経済研究所図書館)

### 《参考文献》

- ① アジア経済研究所図書館OJSの実験：  
<http://iride.go.jp/ojs/>
- ② African Journals Online: <http://www.ajol.info/>
- ③ Directory of Open Access Journals: <http://www.doaj.org>
- ④ Open Journal System: <http://pkp.sfu.ca/>
- ⑤ Scientific Electronic Library Online: <http://www.sciebo.org/php/index.php?lang=en>